

池田徹郎博士を悼む

坪川 家恒

元緯度観測所長、緯度観測所名誉所員、水沢市名誉市民、池田徹郎博士が本年10月2日逝去され、10月7日水沢市民葬が盛大に営まれた。

博士は大正8年京都帝国大学理学部に入学、同11年卒業後緯度観測所技師、気象課長を歴任し、昭和22年緯度観測所長となられ、昭和38年5月退官まで41年間の長さにわたり緯度観測所の発展並びに我が国の天文学、測地学、地球物理学の広い分野にわたってそれらの進展に大いに貢献されたのである。

博士は緯度観測所入所と同時に測風気球の二点観測を直接指導監督して実施し、水沢上空における上層風の実態を徹底的に調査し、緯度観測に及ぼす上層気象の影響を総合的に研究された。その成果は「上層気流の統計的研究並びに緯度変化に及ぼす影響」の研究として大成された。この研究は水沢周辺における地表附近の大気構造の研究の先駆をなすものである。

大正12年の関東大震災の際には、震災予防調査会の依頼により震災地附近の震動調査に参加し、「震災予防調査会報告」に詳細な報告を発表された。

緯度観測所の運営面においては、第二次大戦中の物心ともに困難な時代において、緯度観測を自ら進んで遂行し国際緯度観測所として1日も観測活動を休止することなく日本の国際緯度観測事業に対する責務を全うされた。

戦後、写真天頂筒の設置、外国報時受信設備の充実など緯度観測所の経度観測の基礎を確立され、国際地球観測年には緯度経度部門に参加し、米国ワシントン天文台との共同観測実施など大いに観測成果を挙げることに尽力された。

更に、国際極運動観測事業中央局を緯度観測所が担当

するに当って、中央局長をよく指導し、同事業発足の推進につとめられ、今日の基盤をつくられた。

一方、地域に関連した研究として博士は、気象課長時代東北地方における凶作と気象との関係に深い関心を持ち、稲作の収量に及ぼす気温の相関性を詳細に調査し、農業気象において画期的な成果を得られた。この研究は「岩手県下における稲作との関係および米収予想」と題して日本学術協会に報告し、其の後の農業気象の研究に幾度となく引用されており、最近の冷害の研究に先駆的役割を果している。

又、博士は関係学会の運営に尽力された功績も大きく、特に日本天文学会、日本測地学会において理事長等をつとめ名誉会員に推された。

緯度観測所を退官された後は、修紅短期大学教授、東北測量専門学校長に迎えられ私立学校の振興にも寄与され、更に岩手県公安委員長を歴任され地域社会の発展に尽力された。

これらの多年にわたる博士の業績に対して昭和25年岩手日報文化賞、昭和43年河北文化賞、昭和42年勲二等瑞宝章を授与される荣誉に浴された。なお10月2日附で従三位が追贈された。

博士は温厚篤実な性格の中に強い信念と実行力を持たれたが、ばら、菊を愛し、人には温和な風貌をもって接せられ博士に接する者にひとしく敬愛の念を抱かせたのである。

最近にいたり博士の健康がすぐれず入院療養につとめられ、我々はその全快の一日も早いことを祈っていたが、遂に不帰の客となられた。

心から博士の逝去を悼み、生前の輝かしい功績に対し敬意と感謝の念を捧げたい。